

自由民主党 中央政治大学院  
まなびとスコラ・オープン講座  
憲法に学ぶ「この国のかたち」

第2期「まなびと夜間塾」特別講座

2021年6月23日

講 師：福富 健一 自由民主党中央政治大学院教授  
テーマ：「重光 葵 連合軍に最も恐れられた男と保守合同」

本日は、このような立派な席にお呼びいただき、ありがとうございます。特に、ここ自民党の中央政治大学院は、私の尊敬する山本勝市先生が学監をお務めになったところです。山本勝市先生は、鳩山一郎先生が、戦時中ですが「計画経済」左右の全体主義に反対する論文を書きまして公職追放になってしまいます。私の恩師も河合栄治郎の弟子と一緒に東大を出てしまうのです。この席で皆様方にご講演できることは身に余る光栄でございます。大変恐縮ですが近現代史研究家の福富でございます。よろしくお願いいたします。

早速ですが、始めたいと思います。ちょっと力を入れ過ぎまして、タイトなレジュメを作りまして（パワーポイント）、ほぼ30ページございますので、1ページあたり1分半ぐらいのペースでやっていきたいと思います。

<<レジュメの内容>>

○（レジュメP. 2）全体構造（目次）

○（P. 3）はじめに～重光葵とは

1. 四海を志す～父は郡長・漢学者

2. 外交官としての足跡

（1）戦前期～日中関係改善、張鼓峰事件、日米戦争回避

（2）戦中期～大東亜会議、終戦工作

（3）戦後期～軍政回避、改進黨総裁、鳩山内閣外相

3. 重光葵と保守合同

（1）保守二大政党制の誕生と党則

（2）重光・鳩山・三木武吉の追放解除と吉田の対応

（3）自由民主党誕生と民主的な政党政治の確立

まず全体構造ですが、最初に重光葵の生まれた郷土です。そのあと戦前、戦中、戦後。先ほど中谷学院長がおっしゃいましたように、保守合同で何をしたかということ。一般的に、吉田茂を中心に書かれた『小説 吉田学校』みたいなものが日本では多くもてはやされていますが、重光葵からも見るとより立体的に近現代史が見えてくるとと思いますので、お役に立てばと思います。それでは早速、始めたいと思います。

（P. 4）○いや動かなかったのは親父さんだけじゃない。（重光篤氏）

(写真)重光 篤 氏 (写真)昭和7年4月29日上海天長節式典

○戦時外交の大半を担ったのは重光葵。(筑波大学名誉教授 波多野澄雄)

○明治以来、真に外交官として歴史に恥じない業績を挙げたのは、

小村寿太郎と重光葵。(京都大学名誉教授 中西輝政)

私がなぜ重光葵が好きかと言いますと、私の関係者は歴史研究者が多くて、その中で重光葵というのはなかなか立派な方だと。筑波大学の波多野名誉教授は「戦時外交の大半を担ったのは重光だ」とか、中西輝政教授は、「明治以来、最も大きな業績を成したのは小村寿太郎と重光だ」と。

私は、重光篤さん（次男）と、あるテレビで一緒になることがありまして、インタビューに行ったのです。調べると昔は天長節といって天皇陛下の誕生日に式典をやったのです。そのとき上海にいまして（在上海公使だった）重光葵が天長節の式典に出ておりまして、爆弾が投げられるのです。ちょうど国歌斉唱中だったのですね。重光の日記を読んでいると、「国歌斉唱中に動くのは不敬だと思って動かなかった」ということで動かなかった。篤さんに「重光閣下は動かなかったけど、立派な方ですね」と言うと、篤さんが「いや、福富君、違うのだよ。動かなかったのは親父さんだけじゃないのだよ。（一緒に）いた白川大将（上海派遣軍司令官）にしても、誰も動かなかったのだ」と、それを聞きまして重光外交を調べようということになります。その時に、たまたまですが、軍人の関係者、知り合いが多くて、白川大将はこれで死にます。河端貞次（医師）という（上海）居留民団（行政委員会）の会長も亡くなります。重光は右足を失います。野村吉三郎大将（当時中将・第三艦隊司令長官）も片目を失います。そういう状況でありました。

○ (P. 5) 1. 四海を志す～父は郡長・漢学者

○ (P. 6) ・1887（明治20年）7月29日生誕(吉田茂 11年、岸信介 29年)

葵 ⇒「葵とは、向日葵のことだ。小さな草花を守る花だ。」(重光直愿)

向陽⇒雅号

・漢学者の父、直愿（なおまさ）

父直愿～直愿の父は杵築村代官 大野郡郡長（養蚕を奨励）、国東郡郡長43歳で引退。

杵築には、漢学で直愿の右に出るものはおらん

・母松子～東国東郡、重光本家23代3女 「子供を引き伸ばしてやりたい」

明治 20 年生まれなのですね。吉田茂が明治 11 年、岸信介が明治 29 年ですから、明治 10 年から 30 年ぐらいに生まれた方々がまだ青春時代を送って、それから自民党結党にみんな参加するような世代です。

重光家は、お父さんが直愿（なおまさ）というのです。非常に難しい漢字ですが 1 字の難しい漢字を付けるのですね。葵（まもる）とは、向日葵（ひまわり）で、小さな草花を守る花だということで、雅号を向日葵からとって“向陽”という。

直愿は杵築（きつき）藩で、大野郡の郡長とか国東（くにさき）郡の郡長を務めます。ところが、43 歳で引退しちゃうのです。家計は当然、貧しくなるのですね。漢学は“直愿の右に（出る者）はおらん”。杵築に行かれた方あると思うのですが、サンドイッチ型城下町の武家屋敷がまだ残っている風情のある街です。お母さんの松子夫人が支えるのですね。重光本家の 23 代で気品のある方です。非常に貧しい中で、筵（むしろ）工場とか、そんなところで家計のやりくりをして育てます。重光は、お母さんの背中を見て母親というもの大切さを小さいうちから知ります。贅沢といたら、お母さんの実家に行って食事することぐらいでした。

○ (P. 7) ・毎朝沐浴、床の間で教育勅語

- ・ 1904 (明治 37 年) 杵築中学校卒業、第五高等学校入学 ハーン博士宅に書生 (ドイツ語)
- ・ 1911 (明治 44 年) 東京帝国大学卒業、外交官試験合格

重光は、お父さんが漢学者だったので、今はこんなことやっている人いないのですが、毎朝沐浴をして床の間で教育勅語を読む。



無跡（むしやく）庵

これは重光の家ですが、行くと小さな卓袱台（ちゃぶだい）があって、そこでお父さんと子供たちが毎日勉強したと、今では考えられないような小さなところで勉強しました。今の立派な机とは違います。

貧しかったので、五高（旧制第五高等学校／新生熊本大学）に入るのですが、優秀な人はハーン博士（当時五高の英語教師）の書生で、食費とかが免除になる。そこでドイツ語を習っています。



杵築高校

これが杵築高校の（扁額）、重光の字ですが、達筆です。明治時代の方は漢学の素養のある方が多いです。岸信介もお父さんが同じく郡の官吏だったのですが漢学の大家です。

その後、東京帝国大学、外交官にめでたく受かります。お母さんは嬉しくて眼を泣き腫らすのですが、当時は外交官とか陸軍士官学校とかに受かるのは名誉なことでした。

重光のようなエリート外交官はどういう道歩んだかということ、吉田茂はどちらかということ支那勤務で出世コースではないのですが、重光とかエリートコースはどちらかということアメリカとかヨーロッパ勤務です。

○ (P. 8) 2. 外交官としての足跡

○ (P. 9) (1) 戦前期～日中関係改善、張鼓峰事件、日米戦争回避

1912 (明治 45 年) ベルリン勤務

第 1 次大戦勃発 (1914. 6. 28) 「セルビアを叩き潰せ」⇒ベルリン脱出

1914 (大正 3 年 8 月) ロンドン勤務

- ・ドイツ的軍国主義とは正反対の英国デモクラシー。
- ・英国王室は、「無言の大なる感化力」。
- ・余暇は全て英国研究。夏冬同じ背広。



克蘭リー・ガーズンス 54 番

1918 (大正 7 年) アメリカ、オレゴン州ポートランド勤務

- ・渾身の勉強に入った。

1919 ベルサイユ講和会議、サイレント・パートナー

- ・5 大国の一員。しかし、4 頭会議 (英米仏伊)

⇒外務省改革運動「革新同志会」結成、重光、有田八郎、広田弘毅

最初に行ったのがベルリンです。1914 年。皆さんご承知のように第 1 次世界大戦が勃発した年です。その時に重光は着くのですが、国民がデモをやっているのですね。ドイツに行った方はご承知と思うのですが、ヴィルヘルム 2 世の宮殿がありまして、そこまでブランデンブルク門からつながっているわけです。そこを大衆が「セルビアを叩き潰せ！」と過激な行進をしているわけです。日本の場合、「日英同盟」を結んでいますから敵国です。大使館は封鎖される、命の危険にさらされながらロンドンへ落ち延びるわけです。

ロンドンに着いたら、ドイツとは全然違うのですね。同じ民主主義の国でも自由なのですね。ドイツの軍国主義と英国のデモクラシーは何でこんなに違うのだろうと。明治の漢学の素養のある人は、不思議なのですが国家を見る目が広いですね。重光にしても岸信介にしても伊藤博文にしても金子堅太郎 (明治期の官僚・政治家) にしても、上から広く見る視野がありまして、例えば、イギリス王室をどう見たかという、重光の日記を読んでいると「思想上も政治上も無言の大いなる感化力を発揮して英国のデモクラシーの美点に貢献している」という文学的な捉え方をするのでですね。漢文の素養とか、万葉集とか古今和歌集とか読んでいるので、左脳だけでなく右脳も発達しているのではないかなという気がするのです。重光の日記を読んでいて楽しいのは、理屈だけでなく、非常に右脳的な、万葉集的な、そういう良さがございます。

重光は余暇を全て英国研究に費やして、春と夏は同じ背広で、養父・彦三郎 (母方の伯父) が重光を応援してくれまして、そのお金で高校とか大学を出るわけです。その借金の

借用書が重光博物館に残っています。お金を返しながら外交官をやっていましたが、そんな中、高価なクランリー・ガーズンス、取材に行ったのですが、大分の生活とは全然違う。ガーズンスの裏側へ行くと庭があるのですね。日本で売っているマンションの何とかガーデンと違って、むこうは本当に庭があります…。

そういったことを経て、そのあとアメリカへ行きます。だから、ベルリン、ロンドン、アメリカと全部見ているわけです。重光のすごいところは「渾身の勉強に入った」とか「自らに鞭打って勉強にいそしんだ」とか、小さなうちからお父さんのもとの一生懸命に勉強したからでしょう。ここは吉田茂と違って、夜、遊びに行かずに、勉強をやっています。

そのあとベルサイユ講和会議が開かれるので、助太刀しろということで、アメリカから急遽行くことになります。エリートコースにいたので当然行きます。吉田茂も行くのですが、吉田茂は牧野伸顕に頼んで行くのです。

ところが、行ったのはいいけれど会議の数よりも随員の方が少ない、しかも5大国の1員なのに実際は英米仏伊の4か国でやっているのではないかと、疑問を持つわけです。それで「革新同志会」といって、重光とか有田八郎とか広田弘毅とかで外務省をしっかりとさせようと外務省改革に取り組みます。重光は常に、傍観者ではなく現場の中で生き続けます。

そんなことをしているうちに、お母さんが亡くなってしまうのですね。

○ (P.10) 1920 母亡くなる 「お国に差し出したのだから、御用とあらば会わなくとも心残りない」

8年ぶりの帰国

1921 ワシントン会議、原敬刺殺。

1922 中国に関する9カ国条約、日英同盟廃棄

1925 (大正14年) 北京公使館一等書記官 日本の外交の中心がワシントンから北京へ

北京関税特別会議(13カ国)

「世界的視野は一見識であるが、幣原が中国勤務を欠いたことが体質的欠陥。幣原外交の行き詰まった背景は、共産党化した国民党政府の革命外交に対する認識の甘さ」

佐分利貞男：関税自主権を承認⇒北京政府の崩壊

(6.16 父他界)

1928 (昭和3年) 駐独大使館参事官 張作霖暗殺事件、済南事件

「お母さんは、『お国に差し出したのだから御用とあらば会わなくても心残り無い』と言って死んだよ」という手紙を受け取るのです。重光はたまたまですが、お母さんが亡くなる夢を見ているのですね。それが正夢になってしまって、日記を読むと、「哲学的になってしまった」とか「精神状態に深刻な衝撃を与えた」とか、かなり衝撃を受けて8年ぶりに帰国します。昔の外交官は、飛行機でパッと帰れないので8年ぶりに帰国します。

お父さんも他界しますが、この時も重光は交渉中で、帰ることができませんでした。

そんな中、ワシントン会議で4か国条約を結び、それによって日英同盟は、1923年に廃棄となります。「日英同盟のない日本の在り方」ということになるわけです。日本の外交の中心がワシントンから北京へということで、幣原外交はワシントン条約に基づいて中国ときちんとした外交関係を築こうということになります。

その一方で当然、日本では反対側の強硬論も出てくるわけです。済南事件（1928年5月／北伐中の中国国民革命軍と山東省に出兵した日本軍の武力衝突事件）とか、いろいろな事件があります。その中で重光は外務省のホープですので、ヨーロッパから北京公使館に一等書記官として行きます。ところが、関税特別会議、中国の関税の自治権を認めようということで、重光は、佐分利貞夫、彼も外務省のエリートですが、その下でやってこれを成功させるのです。

ただ、重光は幣原とは仲いいのですが、幣原はエリートコースなので中国勤務を欠いたことが日中外交を考える際の欠陥であったと。中国の中に皆さんご承知のように共産化した革命外交をやっている人々もいますから、そういったことを認識せずにただ単に友好だけでは上手くいかない。そんな中で重光は、関税協議を成功させます。その交渉中に、お父さんが亡くなります。

#### ○ (P.11) 1929 上海総領事（済南事件の解決）

田中義一内閣、森格政務次官、吉田茂次官（森・吉田：市場・権益、重光：政治的交渉国）

⇒憲法が眠るとき、国家は危うくなる、昭和の動乱は、憲法の死文化に原因、国民が身を持って守らねば、憲法は眠ってしまう。

図 『昭和初期政治史研究』（伊藤隆 東京大学名誉教授）

1930 駐中華民國特命全權公使（書記官・林出賢次郎「砂漠に咲く花のように死んでいく」）、

佐分利貞男参事官自殺？

浜口雄幸暗殺



## 日華関税協定調印、王正廷の革命外交

⇒左傾思想・民族解放思想の浸透、蘇州や杭州の居留地は返還を

### 1931 宋子文・重光暗殺計画

そして今度は、ドイツに行けと言われドイツ大使館勤務になるのですが、済南事件が起きる、上海勤務を命じられるのです。日本人の居留民が虐殺されるのですが、中国（人）の方が殺されたと……両方の言い分あるのですけれども、こういった時に田中義一内閣（第26代）、森恪政務次官、吉田茂次官。森・吉田は中国を市場とか権益と見ているわけです。重光は外交官ですから交渉国と見ているのですが、重光としては現場で中国と上手くやろうとしているのに田中義一内閣はご承知のように昭和天皇陛下から張作霖爆殺事件で「言っていることが違うのではないか…」ということで最後には辞任します。私の尊敬する伊藤隆東大名誉教授の『昭和初期政治史研究』は、「大正デモクラシーの時代からファシズムの時代」だと単純に教えている教科書もありますが、実際はそうじゃない。当時の様々な人々を伊藤隆先生が研究して、例えば、田中義一内閣だとまだ立憲政友会です。森も立憲政友会の議員です。吉田茂は外交官です。こういった人は大正デモクラシー的な考え方かというところではなく、どちらかというところ中国に対して権益を保持しようと。特に森政務次官など「中国なんか叩き潰しても構わない」と、重光の前で言っているわけです。重光としてはたまったものじゃないですね。現状を上手く処理しようとしているのに。だからヨーロッパ諸国についても上手くやろうとする方向ならいいのだけれども、破壊の方向へ行ったら困るわけです。大正デモクラシーだからといって、誰も彼もが民主主義を目指したのではないですよ、という伊藤隆先生の論文です。だから突然、歴史は変わるのではなくて、平和な時代にも、こういう芽があるわけなのです。

重光は何を思ったか。片方では田中義一立憲政友会内閣が中国強硬論を言っているわけですね。上司である幣原喜重郎は「中国と上手くやれ」と。その中で済南事件を解決するのですが、その時に、近衛文麿内閣ができる前、

「憲法が眠るとき、国家は危うくなる、昭和の動乱は、憲法の死文化に原因、国民が身を持って守らねば、憲法は眠ってしまう…」

国民自身が民主主義を守るのだという関心がないとダメですよ、と名言を述べています。



そのあと中華公使として行くわけですね。なぜ中華公使で行くかというところ、先ほど言いました外務省のエース佐分利貞夫が謎の自殺を遂げるのです。松本清張は、あれは自殺じ

やなくて他殺じゃないかと言われてはいますが、本来は佐分利が行く予定だったのです。謎の自殺を遂げてしまうので、そのあと小幡（西吉）公使を後任に指名するのですが、中国側は嫌でアグレマン（承諾）を拒否するのですね。そのために重光は、代理で特命全権中華公使として行きます。それで日華関税協定を結びます。

ただ、その時に、王正延（國民政府外交部長）と重光は非常に仲いいのですね。一緒にテニスやったり、王正延はテニスが上手ですが、2対1で重光が勝ったとか、済南事件を解決する時には王正延と一緒に蒋介石の縁戚の家へ行って2人でアヘンを吸いながら中国の将来を話し合ったりして、それで交渉をやっていくわけです。吉田茂は奉天総領事の時に張作霖が、当然、吉田の方が格上ですが、張が吉田に中華料理をとってあげても箸をつけなかったのと行動は全然違う。中国とも何とか上手くやろうとするわけです。

ところが、王正延から話を聞くと、関税自主権を与えたぐらいではダメだということを、重光は知るわけですね。左翼思想に加えて民族解放思想も中国に広がるわけです。もし中国と上手くやるのだったらば、杭州とか蘇州の居留地を返還するぐらいのことをやらなければダメですよ。重光がそう思ったとして、上手くいくわけではないですね。革新勢力が日本の中に根づいているわけです。別に軍部だけじゃないのです。外務官僚もそうですし政治家もそうですし、そういった中で重光は、憲法を守らなければ国家というものは危うくなると。重光と仲のいい宋子文（國民政府重鎮）が上海へ着く時に暗殺されそうになる。その時に宋子文の秘書は殺されてしまうのですが、そんな中で上海事変が起きます。そしてまた重光が駆り出される。重光としては、たまったものじゃない。重光は中国と上手くやろうとしているのですが…。

○ (P.12) 1932 第一次上海事変停戦協定、白川義則司令官、松岡洋右

 爆弾で負傷しながら停戦協定に署名  恩賜の義足

#### 5.15 事件犬養毅暗殺

1933 外務次官、白鳥敏夫騒動

1936 駐ソ大使、共産革命の実態を知りたい

- ・日ソ漁業交渉(36年)
- ・張鼓峰事件日ソ停戦協定(38年)
- ・スターリンは、右手で大ロシアの建設、左手でコミンテルンを号令。
- ・共産革命は、初めより無理のある理論の実現に直進、目的達成のため手段を選ばぬ。

1932年という、ご承知のように、「戦さにつながる 5.15 事」件が起きた年でもある。満州国の建国が 1932 年 3 月 1 日ですから、満州国建設とか起きている。その一方で、重光に中国と仲良くするよとということ、その時に停戦協定を結ぶわけ、そして最初に説明した爆弾事件が起きるわけ、何とかして重光を抹殺しようという勢力があるわけ、ただ、重光は日中関係を改善するためには停戦協定しなければいけない。しかし、白川義則司令官は陸軍の方から北上して突っ込めという指示を受けているわけ、

ただ、天皇陛下は御賢明ですので、「停戦協定を早く結べ」ということで、天皇陛下の意を受けて白川義則司令官を説得し、それ以上の戦線拡大をせず、上海天長節で重光は右足を失うのですが、それでも停戦協定に署名している。

重光記念館にある写真ですが、こういった形で署名します。こういったことで重光は、イギリスとか欧米の外交官から尊敬されることになります。

この写真が記念館にある“恩賜の義足”です。重光が片足を失った時の右足の義足がこれです。

## ○ (P.11)

大正デモクラシーと言いながら、犬養毅が暗殺されたり、外務次官の白鳥敏夫騒動とい、同じ外務省の革新官僚でも、この頃になると軍部が全て悪いのではなく、白鳥敏夫の本などを読みますと、ナチス党的な国の方が国家は上手くいくと主張している。一党独裁的な方がいいのではないか。ナチスとかソ連スターリンの一党独裁的な国家の方が戦時体制はいいと。だから日独伊三国同盟に進んで、ロシアと上手くやれば大丈夫だとい、このような主張になります。

そんな中で、重光は片足を失いましたので外務省勤務になり、傷が癒えると外務次官になって、その後、「どこへ行きたいか…」とい、駐ソ大使に共産革命とは何かを知りたいとい、このことで行くわけ、ところが、日独防共協定を結んでいますので、ソ連は敵国なので、行くと同時に漁業交渉で、日露戦争後に（日本が）持っていた漁業権をソ連は、「もう継続しないと」と主張する。しかし、重光は漁業交渉を上手くまとめます。

次に、第 2 のノモンハン事件と言われている張鼓峰事件ですね。満州とソ連と朝鮮半島の国境にあるのですが、そこをソ連軍が占領して、それを日本軍が取り返すとい、データはいろいろあるのですが、少なくとも数千人死傷しています。重光はソ連と交渉する度に記者会見を行い、マスコミを味方にして、上手く停戦協定を結びます。ソ連が重光を A

級戦犯にしたのは、張鼓峰戦協定を上手くやった裏返しだとも言われています。

重光は、ソ連を研究しまして、「スターリンは、右手で大ロシアの建設、左手でコミンテルンを号令」「共産革命は、初めより無理のある理論の実現に直進。目的達成のため手段を選ばぬ」と、こういった形で、ソ連を研究します。

あまり余談に触れると 45 分では終わらないので……。ソ連大使として行くと、東郷茂徳にしても他の外交官の本を読んでいると、多くの方はちょっと憂鬱になるのですね。ソ連の冬の寒さとか。ところが重光は、「白樺林は妖精がいるように美しい」とか。やはり万葉の心があるのでしょうか。そういった意味で、左脳的だけでなく、右脳的な、両方あるという感じであります。

## ○ (P.13) 1938 駐英大使

### 1939 英独開戦

### 1939 ビルマ路閉鎖交渉・重光コネクション（ハリファクス卿、ロイド卿、ハンキー卿）

- ・隣家にお茶を飲みに行くように突っ込んで行った。
- ・自分は、任を奉じ、未だかつて弱腰で交渉したことはない。
- ・ドイツ人は政治を戦争。イギリス人は戦争を政治の一部。イギリスの勝利を確信
- ・近衛公は自己を犠牲にする精神はない「かつがれ屋」。だから政策は戦線拡大主義になる。

**写真** ダウニング・テンのチャーチル

**写真** フェテス・コレッジ

駐ソ大使の後、駐英大使になります。この頃になると日独伊三国同盟を結んでいる日本、英国とかなり悪化しているわけです。それにもかかわらず重光は「ビルマ路閉鎖交渉」ということで、チャーチルと交渉して3か月間、ビルマ路を閉鎖するのです。その間に日本と中国の戦争を停戦まで行かなくても関係改善させよう、そうすれば日本が大戦に突っ込むことはないだろうと考えた。

重光の前の駐英大使は、ご承知のように吉田ですね。吉田の場合、最終的にはピエロになったと、吉田の秘書の加瀬俊一元国連大使は本などにそう書いている。加瀬俊一さんの息子さんが加瀬英明先生（外交評論家）ですね。今 85 歳近くになっていると思いますが、私と親しくしていただいている方です。

重光のすごさは、ハリファクス卿とかロイド卿とかハンキー卿と定期的な会合を持つのですね。外務省の一職員でありながら、ここまでやるといったところに重光のすごさがあ

ると思います。

### ○ (P.11)

あと1人、言うのを忘れたのですが、林出賢次郎という人がいるのです。二階幹事長と同じく和歌山県の御坊出身です。重光と同じく非常に貧しい家に生まれるのですが、県費留学で3年間上海に留学して中国語の大家になるのですね。宮廷語まで話せて、中国人になりきってソ連との国境までくまなく調査したとか、砂漠の花を見て「私は砂漠に咲く花のように死んでいく」と言って、満州国皇帝の溥儀（ふぎ）とか天皇陛下の通訳とか大役を務めるのです。重光の暗殺計画があった時に「俺が犯人を殺してやる」と言うのですが…。

重光とか林出賢次郎、こういった人を国家にどれだけ抱えられるかが「国家の強さの源泉」ではないか。国家の底辺で、国家のために「砂漠に咲く花のように人知れず死んでいく」、こういった人々を抱えていたのが日本の強さの1つになっていたのではないかと思います。

### ○ (P.13)

言い忘れましたが、重光はチャーチルと話して、もう一つ戦争回避の交渉をおこなうのですね。松岡洋右がイタリアでムッソリーニと日伊同盟を結ぶ交渉の帰りに、スイスで松岡洋右をつかまえて、チャーチルの「戦争を回避しよう」という手紙を渡す手筈にするのですが、それは結局、松岡が忙しいからと、無理になります。

イギリスへ行った方は、この画像は、フェテス・コレッジです。イートン校の写真ちょっと見つからなかったもので…。こういった中高一貫校のイギリスはエリートたちが軍事教練と普通教育を一緒にやっています。この横に、ハリーポッターに出てくるような立派な教会とかあるのです。バトル・オブ・ブリテンとって、イギリスはドイツと戦っている中、重光は、若者たちが「隣家にお茶を飲みに行くように突っ込んで行った」と記しています。ケンブリッジにしてもオックスフォードにしても15%ぐらい若者が死んでいます。「ドイツ人は政治を戦争と、イギリス人は戦争を政治の一部」と見ている。

重光は、戦争を政治の一部と考えている国、イギリスが勝つに決まっていると判断する。だからイギリスとの戦争なんかやめなさいと盛んに言うわけですね。

重光は、近衛文麿もあまり好きじゃないのですね。というのは、近衛は誰とでも上手く

やろうとするから、どうしても「かつがれ屋」になる。結果として、いろんな人の意見を聞いて戦線拡大になってしまうという。

重光の予想通り、真珠湾攻撃をやってしまうのです。イギリスの敵国になったので、重光は、ベルリンを去ったようにロンドンを去るわけです。

#### ○外交としての足跡 (2) 戦中期 ～大東亜会議、終戦工作 (P.14) (P.15)

1941 (昭和 16 年) 12 月 8 日 真珠湾攻撃

※大東亜戦争とは「今次の戦争は、大東亜戦争と呼称す」(昭和 16 年 12 月 10 日閣議決定)

**写真** 1941 年 8 月 大西洋憲章

12 月 19 日 中華民国大使

1943 年 4 月 外務大臣就任

11 月 大東亜会議開催

(参加国)

大日本帝国：東條英機総理大臣、中華民国：汪行政院院長、タイ国：ワンワイ殿下、満州国：張國務総理大臣、フィリピン国：ラウレル大統領、ビルマ国：パーモウ総理大臣、自由インド仮政府首班チャンドラ・ボース氏陪席

**写真 A**

**写真 B**

ご承知の方は多いと思うのですが、昭和 16 年 12 月 10 日の閣議決定で「今次の戦争は、大東亜戦争と呼称す」ということで、「大東亜戦争」という名称を閣議決定しています。

また、中国と関係が悪いということで、重光は中華民国大使をやります。中国との関係を良くしようということで外務大臣に就任。天皇陛下から重光が慕われていたことも背景にあります。そんな中、皆さんご承知のように、大東亜会議を開催します。

これがその時の東條英機を中心とした集合写真 (A)。写真 (B) は大東亜会議。今の参議院第一委員会室ですね。そこでやっています。委員会室へ行くと、この光景をいつも思い出して、なかなか歴史のある、いいところだなと思います。

#### ○ (P.16) ・ 11 月 6 日 大東亜共同宣言の採択

① 共存共栄の秩序を建設する

② 相互に自主独立を尊重する

- ③ 相互にその伝統を尊重する
- ④ 互恵のもと緊密に提携する
- ⑤ 人種的差別を撤廃する

重光「敵側の弱点の重大なるものは、アジアに対する差別概念である。チャーチルがなしたる大西洋憲章のアジア差別概念を逆用し、我が大東亜政策は、必ずやアジアの解放、自主平等の基礎のもと  
の世界平和に貢献する。」

・重光・木戸による終戦工作

1945（昭和20年）8月9日 御前会議御聖断による終戦

続いて、大東亜共同宣言。こういった形で、共存共栄とか、人種差別撤廃とか掲げます。加瀬英明先生のお父さんの俊一さんの話では、重光がこれを考えるのに、今のイギリス大使館の近くに自宅があるのですが、ベートーヴェンのように髪を振り乱しながら考えていたと。今の国連憲章の前段みたいな考えですね。アジア地区で共存共栄の組織を作ろう。なぜかという、チャーチルとルーズベルトが会談して「大西洋憲章」を作るのですが、人種平等と言っていますが、植民地を除く人種平等だったのです。それに対抗しようということで、重光は、敵側の弱点はアジアに対する差別だと、それで大東亜会議をやらうとなります。当然、戦争はもう悪化していますので、重光と木戸は終戦工作して、天皇陛下の御聖断で終戦に持って行きます。

○ (P.17) 2.外交官としての足跡 (3) 戦後期 ～軍政回避、改進黨総裁、鳩山内閣外相

○ (P.18) 1945（昭和20年）年8月17日 東久邇宮内閣 重光外相

9月2日 降伏文書調印

写真 戦艦ミズーリ号での降伏文書調印式 写真 アナポリス海軍士官学校資料館

願くは御国の末の栄え行き 吾名さげすむ人の多きを

9月3日 重光・マッカーサー会談 軍政から間接統治へ

三布告 ①英語を公用語とし軍政

②占領違反者は軍事裁判

③軍票を法定通貨

9月17日 外相、重光から吉田へ

10月5日 東久邇宮内閣総辞職、幣原内閣

そして、先ほど中谷先生が言ったように、「ミズーリ号」で降伏文書調印します。ミズーリ号に架かっていたのは、ペリーが来航した時の「サスケハナ号」の星条旗です。現在は、アメリカのアナポリスの海軍士官学校に飾ってあります。行かれた方もいると思いますが、私も行って写真を撮ってきました。アメリカは必ず星が左上になるように展示します。

マッカーサーが重光と会談した翌日、GHQは、英語を公用語として軍政にするとか、軍事裁判とか、軍票を法定通貨とする方針でした。重光はマッカーサーと会談し、日本はポツダム宣言受諾による降服だからということで、間接統治に変えます。

そんな中で重光は、天皇陛下に呼ばれました。その夜、天皇陛下が重光のこれまでの経緯をお聞きになって、「それはまことに良かったね」と。そして重光は、その時に歌を詠むのですね。

「拝謁を終りて出づる吹上の 御苑の上に望月かかるも 重光 葵」

望月とは満月で、重光も幸せだったのでしょうかね。重光は「大御心（おおみごころ）を体した外交官」と言われます。

重光から吉田に変わった原因は、国際政治学者の高坂正堯先生によれば、ヨハンセン（グループ）で吉田と一緒に反戦運動をやった岩淵辰雄が、重光だと天皇陛下をあまりに重んじすぎるので、GHQとの関係から吉田にしようということで吉田に代わった、というのが高坂正堯先生の説です。

あと1つ、万葉集と言ったのですが、これが有名な句ですね。

「願くは御国の末の栄え行き 吾名さげすむ人の多きを 重光 葵」

ミズーリ号で戦争に敗けてサインした国の外務大臣、こんな吾の名をさげすむ人の多い国になるほど立派な国になってくれ、という願いを込めて作っています。

○ (P.19) 1946年4月29日 戦犯として逮捕（東京裁判）

1948年11月12日 禁固7年

1950（昭和25年）11月21日 仮釈放

1952 改進黨總裁、大分2区 衆議院議員



10月総選挙 自由党 240、改進黨 85 右社 57 左社 54

**写真** 昭和 27 年 6 月 改進黨大会

**写真** 『太平洋戦争史』高山書院

これは私が、古本屋の社長に譲ってもらった『太平洋戦争史』ですね。これが昭和 20 年 12 月 8 日から新聞に載って、翌年 10 万部売れたと言われ、内容は太平洋戦争史観です。

○ (P.20) 重光ドクトリンと吉田ドクトリン 「自らの使命は、吉田の残した後始末」

1953 年 9 月 2 日 改進黨「防衛と憲法問題に関する小員会」

9 条 1 項は、不戦条約による国際紛争を解決する手段を放棄したのであって、2 頁で否定した陸海軍その他の戦力は 1 項を達成するためであって、自衛権は否定していない。

1954 年 11 月 第一次保守合同、日本民主党の結成

総裁鳩山一郎、副総裁重光、幹事長岸信介、総務会長三木武吉

12 月 鳩山内閣発足 重光は外務兼副総理

1955 年 8 月 重光・ダレス会談

そして重光は、巣鴨拘置所から釈放後、改進黨総裁。衆議院に出て当選し、そして吉田ドクトリンの吉田に対し重光ドクトリンで対峙していきます。

○ (P. 21) 1956 年 7 月 日ソ交渉

12 月 18 日 国連総会「日本は東西の架け橋となる」「もはや思い残すことはない」

12 月 23 日 鳩山内閣総辞職、石橋湛山内閣

1957 (昭和 32 年) 1 月 26 日 永眠

最晩年に国際連合加盟の際、「日本は東西の架け橋となる」と有名な演説をして「もはや思い残すことはない」と心境を語っています。アメリカから帰ってきた時に鳩山内閣は既に総辞職し、翌年の 1 月 26 日に永眠してしまいます。ちょっと省いたのですが、それと同時に重光は戦後 A 級戦犯から解放されて、それから改進黨総裁になるのですが、その前に、保守 2 大政党制の歴史が分からないと、改進黨が分からないので、簡単に駆け足で説明します…。

○ (P.22) 3. 重光葵と保守合同

○ (P.23) (1) 保守二大政党制の誕生と党則 写真 碑

- |                     |  |
|---------------------|--|
| 1892 (明治 25) 立憲自由党  | 院内に政務調査局を置く  |
| 1901 (明治 34) 立憲政友会  | 各調査局の成案は総務委員会に提出する                                     |
| 1924 (大正 13 年) 政友本党 | 本党に政務調査会、常務委員会を置く<br>総務委員に建議するものとす                     |
| 1927 (昭和 2 年) 立憲民政党 | 政務調査会は適宜之を部に分ち各部に部長を一人置く。<br>政務調査会長は総務会に出席し意見を陳述することを得 |

ご承知のように、中谷先生の土佐にあるのですが、「自由は土佐の山間より出づ」と有名な碑文が刻まれています。

全部話すと時間がなくなりますので、「党則」の部分だけ言います。

板垣退助と大隈重信。板垣退助は自由党の流れ、大隈重信が改進黨の流れですが、そういったことを端折って、明治 25 年に立憲自由党、板垣退助の流れです。「院内に政務調整局を置く」ということで、帝国憲法では 3 か月間、90 日の会期だったので、事前にこういう法案とか予算案ですよと説明しないと回らないということが分かってくるのです。だから憲法発布して数年後、もうそうなる。

そして明治 34 年には、立憲政友会が「政務調査局」、「総務委員会」という「自民党の原型」ができます。大正 13 年の政友本党では「政務調査会」、「総務委員会」という形になります。

立憲民政党ですね。大隈の流れですが、「政務調査会は適宜之を部に分ち各部に部長を一人置く。政務調査会長は総務会に出席し意見を陳述することを得」ということで、今の「自民党の原型」が出来上がります。

○(P.24) (選挙制度史) 年表

もう 1 つ知らないといけないのが、明治 22 年頃は (納税要件 / 直接納税) 15 円以上で (人口に占める有権者比率) 1.1%、明治 33 年は 10 円以上で 2.2%、大正 9 年は 3 円以上で 5.5%、だから大正デモクラシーの頃は有権者が増えるのですね。ただ単に「統帥権干犯問題」、何であんなことやったのだとか、「軍部大臣現役武官制」がけしからんとか言う

のは簡単なのですが、有権者が多くなると国民の意に添うような方向へ行くわけですね。先ほど述べた吉田とか森みたいな、今から考えれば何であんな過激な、ということも国民の世論に訴える。日露戦争で日比谷焼き討ち事件とか起こっても平気なのは、有権者がみな裕福な方なのですから。(2016年から)今は18歳以上で、83.7%が有権者(人口に占める有権者比率)なので、先生方は大変なことだろうなと思います。すみません、駆け足で……。

○ (P.25) (日本政党史 明治～保守合同 [概観]) **チャート図**

ご承知のように、「征韓論」で板垣退助が下野して「愛国公党」から「立憲自由党」。そして「立憲改進黨」は明治14年の政変で伊藤博文と大隈重信が争って、「民党」という形で始まります。

一旦、両党は「憲政党」になるのですが、やはり二つに分かれ「政友会」の流れは、昭和14年に鳩山系の「(立憲)政友会正統派」、それと「(立憲)政友会革新派」に分かれます。(立憲)民政党は、「大政翼賛会」へ合流。鳩山系は翼賛会に入らず、戦後、日本自由党へ行きます。

戦後(昭和20年)、(日本)自由党、(日本)協同党、(日本)進歩党。社会党系は省略しますが、その時の人数は、日本自由党が43人、日本進歩党は273人です。政友会の分派と民政党が一緒になるから大政翼賛会になる。ところが公職追放になるのです。選挙になり、選挙の結果は日本自由党が140議席で、日本進歩党は273議席から94議席になってしまう。鳩山自由党ができる予定でしたが公職追放になり、吉田自由党ができていく。そして日本進歩党は、国民民主党、改進黨、日本民主党と名称を変え自由党と合流し自民党ができていく。この間、改進黨総裁に重光がなります。

駆け足ですみませんが、全体として、こういう流れの中で行くわけです。

○ (P.26) (明治から終戦までの政府と政党の関係)

期	タイトル	時期	概要
第一期	自由民権運動と 憲法制定	1868(明治元)年～ 1889(明治22)年	五箇条の御誓文(明治元年)、国会開設の勅諭(明治14年)から大日本帝国憲法発布(明治22年)まで。
第二期	藩閥政治と 民党の対立	1890(明治23)年～ 1894(明治27)年	藩閥政府と自由党及び改進黨が対立していた時期。

第三期	藩閥政治と 保守政党との連携	1895(明治 28)年～ 1924(大正 13)年	明治 27(1894)年の日清戦争を機に、自由党が伊藤内閣と連携した時から、清浦内閣辞職に至るまでの 28 年間。
第四期	藩閥政治と 保守政党との連携	1924(大正 13)年～ 1932(昭和 7)年	憲政会総裁の加藤高明内閣から 5.15 事件によって政友会の犬養毅内閣が瓦解するまでの 8 年間。政友会・民政党の保守二大政党制の時代。
第五期	政党政治の停止	1924(大正 13)年～ 1932(昭和 7)年	近衛内閣の「新体制運動」や「大政翼賛会」によって政党政治が停止した 13 年間。

それで私が考えるには、終戦までの政府と政党の関係ということで、第一期が明治元年で「五箇条の御誓文」から始まって明治 20 年の憲法発布まで。第二期の藩閥政治と民党の対立ということで、藩閥政治の方がいいのだと、黒田清隆（第 2 代内閣総理大臣）などは、議会の演説で「民党の政治より藩閥政府の方が公明正大なのだ」と自信を持って言っている。まあイギリスでもどこでもそうなのですね。政党初期の段階はファクション（徒党）と呼ばれてパーティー（政党）にならないのです。日本もファクションからパーティーの時代へと行きます。第三期で日清戦争を機に伊藤内閣と連携した時代。そして保守二大政党の時代（第四期）、政党政治の停止の時代（第五期）と行きます。

ということ踏まえて、あとちょっとだと思うのですが、重光、鳩山、三木と、吉田の関係を見ていきます。

○ (P.27) (2) 重光・鳩山・三木武吉の追放解除と吉田の対応～日本自由党党則の変遷

1945 年党則 総務委員会は総裁をたすけ党の要務を処理す

幹事長は総務会の決議に基づき党務を執行す



GHQ 民政局 政党の民主化、政党法案

1949 年 1 月総選挙 民主自由党 264、民主党 69、社会党 48、共産党 35、国民協同党 14

幹事長は党務執行機関、総務会は議決機関に変更⇒総務会の地位低下、幹事長の地位上昇

1948 年 党則 総務会は執行機関であって党大会並びに議員総会の決議を執行す



1950 年党則 総務会は決議機関として党大会および議員総会の決議に従い……

幹事長は総裁を補佐し、党機関の決議に基づいて党務を執行する

1945 年頃は、『小説 吉田学校』なんかを見ると政局が全てみたいなのですが、そうではなく、党則が非常に影響しているのですね。最初、総務委員会は「党の要務を処理す」という執行機関だったのですね。「幹事長は総務会の決議に基づき」ということで、総務会の下だったのです。

ところが、第 1 回の選挙をしたとき GHQ が「日本はもうちょっと政党の民主化が必要である」と。なぜかという、第 1 回の総選挙の時にすごい数の政党が出るのです。363 も政党が誕生するのですね。政党法案を作ったらどうかと、政党の民主化ということが叫ばれます。

ということが一方であって、吉田茂首相は、幹事長の地位を向上させようとしています。それまで幹事長は「総務会の決議に基づき」と総務会の下にあったのです。48 年と 50 年の党則を比べると、「総務会は執行機関」とあるのを「総務会は決議機関」にするのです。そして「幹事長は総裁を補佐し執行する」ということで執行機関にし、吉田総理は、佐藤幹事長とか、そういった幹事長の差配の下で党を運営できるという形にだんだん作り上げていきます。

○ (P.28) 追放解除：1951.6 三木武吉、石橋湛山

1951.8 鳩山一郎、緒方竹虎

1952.4 岸信介

1951.9.8 サンフランシスコ講和条約調印

1952.2.8 改進黨結成(重光総裁、三木武夫幹事長)

「民主日本の建設に向け、二党政治の基礎を固む」

1952.8.28 抜打ち解散 自由党 240、改進黨 85、右社 57、左社 54

三木武吉総務会長の総務会強化構想

「幹事長指名人事、提出法案、党務報告を総務委員会了承事項」

↓

1953.3.14 鳩山・三木の民主化同盟派離党、分派自由党

4.19 バカヤロー解散と総選挙

自由党 199、改進黨 76、左社 72、右社 66、分派自由党 35

ところが、51年、52年になると、皆さんご承知のように、三木武吉とか、鳩山とか、緒方竹虎とか、岸信介とか、錚々たる国会議員が復帰して来るわけです。そしてサンフランシスコ講和条約を結び、改進黨結成で重光が総裁になります。改進黨ができる時には、国民協同党とか、今なじみがないと思うのですが、「修正資本主義的」な考え方とか協同組合的な考え方があるのです。

重光は「民主日本の建設に向け、二党政治の基礎を固む」ということで、保守二党論なのです。重光に対する左派からの排撃も防ぎながら、重光を蹴落とそうというのがあったのです。本来、受けなければいいのですが、やはり重光はどこでも頑張るのです。これを受けることにします。重光がここで受けたということは、保守二党政治を継承するという大きな貢献になっております。

そして吉田茂の抜き打ち解散を経て、三木武吉総務会長が、総務会を強化しようということで、幹事長指名人事や、提出法案とか党務報告は、総務会了承事項ということに、党則改正ではなくて決めます。

ところが、鳩山と吉田首相の対立が続いて、結局、鳩山、三木は自由党から出てしまいます。自由党から出たので、吉田総理としては党則改正がやりやすくなるわけですね。

○ (P.29) 1953.9.25 吉田の党則改正：総裁権限の強化

幹事長は総裁の推薦により党大会の承認(1950 党則)



幹事長は、総裁これを選任す

国会議員除名の簡略化、幹事長のもとの幹事の権限強化等

1954.3.28 「保守合同は爛頭（らんとう）の急務」緒方竹虎

1954.11.24 第一次保守合同 日本民主党結成(鳩山総裁、重光副総裁)

重光「私は一兵卒になって働く」

1954.12.7 吉田内閣総辞職

総裁の権限を強化しようということで、吉田総理の時は、除名がなかなかできなかったので国会議員の除名の簡略化とか、「幹事長は、総裁これを選任する」とこれまで幹事長は党大会の承認が必要であったのを、吉田首相が選任することができるとか、幹事長のもとの幹事の権限強化等で、よく“吉田ワンマン体制”と言われるのですが、こういったこと

を党則の面からやっている。ただ単に吉田と鳩山の戦いのような、見ていたら面白いのですが、『小説 吉田学校』的な視点の裏に、安保論議と同時に党則の対立がある。

そんな中、有名な、緒方竹虎が「保守合同は爛頭（らんとう）の急務」、1954年です。爛頭とは“爛（ただ）れた頭”で、爛れた頭だからすぐ手当しなければいけないと、54年に「第1次保守合同」で、鳩山総裁、重光副総裁が誕生します。

○ (P.25) (日本政党史 明治～保守合同[概観]) チャート図

重光は、ご承知のように、改進黨なのですね。鳩山自由党の方は、立憲政友会方向の流れから来るわけです。政党としては重光の方がはるかに大きい。にもかかわらず、「自分が…」と言い張らず、「私は一兵卒になって働く」ということで、第1次保守合同をやる。保守合同という時、自民党ができる前の、「日本民主党結成」を「第1次保守合同」と一般に言われています。

○ (P.30) (3) 自由民主党誕生と民主的な政党政治の確立

1954.12.10 第一次鳩山内閣

1955.2.27 総選挙 日本民主党 185、自由党 112、左社 89、右社 67

1955.4.12 「保守結集のために鳩山内閣は総辞職してもいい」(三木武吉) ⇒ 爆弾声明

1955.11.15 自由民主党結成 (衆 295、参 118)

新党結成準備会：延べ 510 名の議員が参加

8 委員会 ①政策(53名)、②組織(52名)、③遊説(51名)、④党規党則(51名)、  
⑤宣伝弘報(51名)、⑥党名(53名)、⑦資格審査(52名)、  
⑧大会運営(53名)

そして吉田内閣が総辞職し、第1次鳩山内閣ができて、その中で三木武吉が「保守結集のためなら鳩山内閣は総辞職してもいい」という有名な三木武吉の「爆弾声明」が発表されます。それをもとにして、最初に政策委員会を作るのですが、7月から1か月ほどかけて党の綱領を作り上げます。その後、すごいのは「新党結成準備委員会」をつくり、その下に、党規党則委員会等、これ全部数えたのですが8つの委員会があり延べ510名、実際は500名弱の議員ですが、500名もの議員が委員会で保守合同に向けて動くわけです。だから、『小説 吉田学校』なんかだと、吉田茂が盛んに抵抗して分裂の危機みたいなことを

言っているのですが、そうではないですね。もうすでに 500 名もの議員が、私もこんな大きい会議体って見たことはないのですが。

その中で、しかも驚くことに党則を 3 か月もかけて作るのですね。先程の改進黨と自由黨の折衷案のようなものでお茶を濁したかという、そうではないですね。この当時の議事録を見ると、「党則」も「綱領」も非常に時間をかけて作っています。しかも極めて優秀な方々が参加して作っているのです。

## ○ (P.31) (党則)

### 第一章 総則

第二条 本党は、党の使命、綱領及び、政策を実現することを目的とする。

### 第二章 執行機関

第六条 総裁及び副総裁は、党大会に於いてこれを公選する。

第八条 幹事長は、総裁を補佐し、党務を執行する。

第九条 幹事長は、総務会が推薦した者の中から、総裁が指名する。

### 第三章 議決機関

第二十五条 総務会は、三十名の総務をもって構成する。

第二十六条 総務会は、党の運営及び国会活動に関する重要事項を審議決定する。

第二十八条 2 総務会長は、総務会において互選する。

私が思うに、一言でいうと、「権力分立」と「権力集中」が上手くバランスしたような党則を作り上げています。

あとすごいのが、今はないですが「第二条 本党は、党の使命、綱領及び政策を実現することを目的とする。」ということで、「党の使命」これを政策委員会で、7月に、まず最初に作るのですね、1 か月間かけて。そういったことをやって、これをみんな理解するわけですね。

ということを含めて、総裁及び副総裁は、公選ですね、GHQ が「党の民主化を考えた方がいいのではないか」ということで、政党法はできなかったのですが、「公選」ということで、だから自民党は元々、民主的な政党なのですね。自民党がよく、総裁を密室で決めたのではないかとか、マスコミに批判されることありますが、自信を持って大丈夫です。「公選」となっていますから。



併せて、「幹事長が総裁を補佐し党務を執行する」。幹事長は執行機関にします。「幹事長は総裁指名」ということで、「総務会は議決機関」になるのですが、「党の運営と重要事項を総務会で審議決定」ということで、「権威のある機関」にするのです。そして「総務会長は総務会において互選」ということで、総裁指名ではないのですね。総務会は独立した機関、権力分立された機関と言えます。

## ○ (P.32) (党則)

### 第五章 政務調査会

第三十四条 政務調査会長は、総務会が推薦した者の中から、総裁が指名する。

第三十五条 3 党所属の国会議員は何れかの部に属するものとする。

第三十七条 政務調査会及び特別調査委員会において、政策を決定する場合は、審議会の議を経なければならない。

2 政務調査会及び特別調査委員会において決定した政策に関する事項は、速やかに総務会に報告し、その決定を経なければならない。

更に特徴は、政務調査会が強化されたことですね。今までなかった「政調審議会」というのを設けたのです。なぜかというと、GHQが去った後、1人でも法案提出できたので、今までの研修会の講義にも出たと思うのですが、“お土産法案”が多くなるのですね。そうすると予算との辻褄が合わなくなって、中北浩爾先生の講演の時にも出たと思うのですが、国会が予算修正しないと通らないような形になります。それではいけないということで、国会法を改正して議員立法の場合は、衆議院20人以上とか参議院10人以上の賛成者とか、そういう規定を設けていきます。

その一方で、政務調査会で政策を決定する場合は政調審議会の議を経なければならないということで、理屈の通った法案を通し、更に政調審議会は総務会に報告しなければなりません。明治以来の政務調査会から総務会という伝統も継承しているわけです。その結果、「ハイブリッドな党則」を作り上げているのです。

というようなことで、駆け足で大変恐縮だったのですが、最後に、

## ○ (P.33) 「願くは御国の末の栄え行き 吾名さげすむ人の多きを 重光 葵」

なぜこれを最後にまた持ってきたかということ、冒頭に言った重光篤さん——重光葵の息

子さんですが、「もし、重光閣下が生きていたら、今の日本をどう思いますかね」と聞いたら、「いや、福富君、それはどやしつけるだろうな」とおっしゃっていたことを今でも覚えております。篤さんは5年ぐらい前ですかね（※2013年死去）、大正15年お生まれですので、亡くなって残念ではありますが、そうおっしゃっていました。

ご清聴ありがとうございました。

（この回おわり）